

人工知能（AI）とどう付き合うか

塚本 達雄*

人工知能（artificial intelligence；AI）が注目を集めている。IBM のスーパーコンピュータ「ディープ・ブルー」がガルリ・カスパロフとチェスで対戦し、初めてコンピュータが人間にゲームで勝利したのは 1997 年であった。インターネットでようやくネットサーフィンが可能となった時代である。電話線とモデムを用いたダイヤルアップ接続で、低速にもかかわらず電話代がかかり同時に電話が利用できないという不便があった。現在の光回線の通信速度は当時の 70 万倍以上であり、30 年間での技術の進歩には目を見張るものがある。検索エンジンも進歩し、さまざまなキーワードを入力すると瞬時に回答が得られる状況となった。日常診療中であっても「腎機能障害 難聴 症候群」と入力すると「アルポート症候群」が提示され、難病情報センターのリンク 参考 URL 1) も示され、診療ガイドラインまで入手することが可能となったのである。正しい診断病名に至るには正しいキーワードの組み合わせ、あるいは検索式が必要であることは言うまでもないが、私は「Google 先生」を重宝してきた。

最近注目されている ChatGPT などの対話型 AI は、画像や文章などさまざまなコンテンツを生成することのできる AI を対話型として活用しているものである。2023 年 4 月 3 日東京大学から「生成系 AI（ChatGPT, BingAI, Bard, Midjourney, Stable Diffusion 等）について」参考 URL 2) が公表され、生成 AI は「検索ではなく相談するシステム」であ

* 田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科

り「仕組み上,書かれている内容の信憑性には注意が必要」なので,「本学では学位やレポートについては,学生本人が作成することを前提としておりますので,生成系 AI のみを用いてこれらを作成することはできません」と示された。さらに, ChatGPT においては入力したデータが OpenAI 社のモデルの学習に利用されるため,個人情報の入力には同意が必要となることや,生成されたデータが入力したデータや既存のデータ(著作物)と同一・類似している場合は,当該生成物の利用が当該著作物の著作権侵害になる可能性があるなど,使用においてはさらなる注意を払う必要があるらしい^{参考 URL³⁾}。生成 AI は米国ではすでに電子カルテに実装されているものもあり,生成 AI との付き合い方をもっと勉強する必要があるかもしれないと愚考しているこの頃である。

参考 URL (2023 年 6 月現在)

- 1) 難病情報センター
<https://www.nanbyou.or.jp>
- 2) オンライン授業・Web 会議ポータルサイト@東京大学:生成系 AI (ChatGPT 等) 関連情報
<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/docs/20230403-generative-ai>
- 3) 日本ディープラーニング協会:生成 AI の利用ガイドライン
<https://www.jdla.org/document/#ai-guideline>